

パブリックコメントに寄せられた意見と市の考え

◆実施期間：令和8年3月19日(木)から4月20日(月)まで

◆提出者：10人（内訳：郵送0人、市公式HP専用フォーム10人、投函箱0人、その他0人）

◆延べ意見数：11件

公表	公表	公表	公表
No.	項目	寄せられた意見	計画への反映状況
1	全体	新型コロナウイルス対策では当初それほど感染者数が多くなく志望者も少なかったにもかかわらず厳しい行動制限（同調圧力の誘導も含む）をしていた、しかし実際にはワクチン接種開始後のオミクロン株流行時に世界一位の感染者数を記録した。ワクチン接種後の死亡や重い副反応も増えた。行動制限は今でも続いているのではない（陽性者が入院した場合に容易に家族に会えない、公共サービスが受けられないなど）。すでに新型コロナ感染者でもほとんどが容易に回復することがわかっていると思われる。そこで、 <u>過度な行動制限を控えるようにしていただきたい。加えてワクチン接種はあくまで任意であることから、希望者のみに接種権を送付するようにしていただきたいです。</u>	素案どおり
2	全体	幼児を育てる母です。 「偏見・差別等や偽・誤情報への対応」が各項目に記されていたのは良かったです。 より具体的に、ワクチンの集団接種をする場合に、 <u>接種は任意のもので、「打たないという選択も尊重されるべき」と伝える文章を、必ず目立つように記していただきたいです。</u> 「ワクチン」への捉え方は医師によっても賛否が分かれているにも関わらず、「有効であり、打つ必要がある」という大きな言説に押されて接種のデメリット側の意見が公の情報には目立ちませんでした。 コロナ禍では、市民の中に「打たない人は迷惑」のような差別や同調圧力が確かにありました。 コロナ禍を経て、子の通う保育園でも、現場が感染症予防へ過敏になっているのを感じます。 例えば近年、乳幼児の予防接種がどんどん増えています、入園前の面談等で接種への圧力とも取れる発言もありました。 マスクや手指消毒も有効なシーンはありますが、健康上の都合でマスクをできない、肌荒れしてしまっていてできない人もいます。 <u>公共施設等で今使われている石鹼や消毒液も、より生分解性の高い石鹼や植物を発酵させたアルコールを選ぶようにしていただきたいです。</u> <u>この素案は、非常時の行動対策と理解していますがコロナ禍で健康を化学物質に頼る傾向が強まっているように感じられるため、市が平時からそれを肯定していると市民側にとられ、その傾向が助長されないよう、発信の仕方には慎重に配慮して検討していただきたいです。</u>	素案どおり
3	全体	結局は、新型インフルエンザワクチン接種を促進するための布石の素案なのかなと思いました。 <u>実際に、ワクチン打って罹患してしまった人とワクチンを打たず罹患しなかった人の数を公表して欲しいです。</u> <u>正しい統計を多摩市の広報誌に掲載をして欲しいですが、難しいでしょうか。</u> インフルエンザワクチンの実体も、今は、製造販売元が内部告発されています。 更には、厚生省やWHOも正しい判断をしてくれない機関であることが、実態として上がっていますよね。 <u>なかなか厳しいかとは、思いますが、多摩市は屈しず、国民生活に根ざした本当の意味での情報統制されない、情報発信を願っています。</u>	素案どおり

感染症対策については、市民の生命及び健康の保護を最優先としつつ、市民生活への影響とのバランスを図りながら対応することが重要であると考えており、本計画においては、感染拡大防止と社会機能の維持との両立を基本とし、対策を講じることとしています。
また、ワクチンを接種するか否かについては、あくまでも本人の意思が尊重されるものであると認識しています。そのため、ワクチンに関する対応は、科学的知見に基づく情報提供を通じ、市民が適切に判断できるように努めてまいります。

本計画においては、偏見・差別や偽・誤情報への対応を重要な柱の一つとして位置付けており、市民の皆様の状況や考え方に配慮した情報提供を行うこととしています。
また、併せてワクチン接種の有無を含め、個人の判断が尊重されるよう配慮するとともに、差別や不当な扱いが生じないよう、リスクコミュニケーションを通じた適切な情報提供を行うこととしています。
なお、本計画は、感染症危機に備えた基本的な対応方針を定めるものであり、感染症対策の実施に当たっては、健康や生活環境への影響にも配慮しつつ、必要性や有効性を踏まえた対応に努めてまいります。

本計画は、将来の新型インフルエンザ等の感染症危機に備えるための基本的な対応方針を定めるものです。ご意見にあるような、個別具体的な統計データについては、市として把握しているものではありません。ワクチンの効果や安全性等に関する評価については、国等において専門的知見に基づき収集・分析・公表が行われているところであり、市としてもこれらの情報を踏まえ、市民に対し正確かつ分かりやすい情報提供に努めてまいります。

4	全体	30代基礎疾患なし市民です。現在、市内でワクチンを接種しようとしてもどこで受けられるのか情報がなく、また公費助成の対象でもないようです。<u>助成についてはリスクの高い方が優先されるのは理解できますが、そうでない市民についても希望者は摂取できるように情報をまとめて欲しいです。医療機関に相談しても、公費助成の対象となる高齢者以外は接種ができないと断られる状態です。高齢者への接種を実施している医療機関への任意接種実施の対応、および実施場所のまとめを市で行うようお願い申し上げます。</u>	素案どおり	現在、任意接種については各医療機関の判断により実施がされています。そのため、市として、実施状況の把握は行っていないが、いただいたご意見を参考に検討させていただきます。
5	全体	<u>新型コロナの過剰な感染症対策の反省をして欲しい。実際は効果的ではなかったマスクのほぼ強制や、それに伴う同調圧力など、感染症よりも、人々を精神的に追い込む、特に子供たちに対しての感染対策が行き過ぎないようにするべきです。黙食や過剰な消毒、学校行事の中止なども、反省を生かしてください</u> 当時学校に行けなくなった子供もいました。ワクチンについては、毎回メディアが過剰に煽るので、ワクチンは打たなくてはならないと思っている市民は多いです。副作用などの正しい情報は行政から積極的に発信し、正しい判断ができるようにしてください。	素案どおり	先の新型コロナウイルス感染症の対応は、市民の生命及び健康の保護を最優先とした対策を講じてまいりました。また、将来に備え、過去の経験等を活かした取り組みを実施することが重要であると考えてます。 一方、本計画においては、子どもたちの成長への影響も配慮しつつ、各種対策について、正確かつ分かりやすい情報提供に努める考えです。
6	全体	<u>新型コロナが日本でも患者が出始めてから全国的に過剰にPCR検査に頼っていました。例えばほかに急を要する状態（交通事故や心臓の問題など）でもPCR検査陽性であれば治療しない、病院が受け入れないなど。PCR検査は誤りが多いのでこのような対応していたら別の原因の死者や重傷者が増えてしまうと思います。過剰にPCR検査を優先していたのではないのでしょうか。多摩市ではどうだったでしょうか。</u> <u>新型コロナが蔓延していたころ、市内の病院の逼迫状況と入院感者の症状がどうだったか教えてください。</u> <u>ワクチン接種（70％以上）をすれば終息すると言われていましたが、実際には接種開始後に感染者数が非常に増えています。その理由について市民へ科学的な説明はされていますか。</u> <u>市内の新型コロナワクチン接種者の接種後の健康状態は追跡調査されているでしょうか。</u>	素案どおり	本計画は、将来の感染症危機に備えるための基本的な対応方針を定めるものです。先の新型コロナウイルス感染症の対応については、様々な課題や影響があったことを踏まえ、市民生活等への影響にも配慮しつつ、将来の感染症危機に備えた対策を行う事が重要であると考えています。 また、感染症に関する科学的評価については、国等において専門的知見に基づき分析・公表されているところであり、市として、それ以上の調査等を行う考えはありません。

7	全体	<u>特措法に基づかない任意の対策本部を設置して、基本的人権を尊重し、対策行動をとってもらいたい。また、コロナ禍のような検証のされない感染症対策はあまり意味がなく、恐怖を煽り、差別を生む機会になってしまったところを反省し、言動に責任を持って欲しいと思います。</u>	素案どおり	本計画における体制整備については、関係法令に基づく対応を基本としつつ、感染状況に応じて柔軟に対応できる体制を確保することとしています。 また、感染症対策の実施に当たっては、基本的人権の尊重を前提とし、偏見・差別や不当な扱いが生じないよう配慮する必要があることについても、本計画に記載しています。
8	全体	<u>新型インフルエンザ等対策についてです。多摩市は、6年前にコロナ感染症対策について検証されているのでしょうか。コロナ対策で、生活が困窮、お子さんの不登校が増えたこと、マスク等で発達の遅れるかがあると研究させています。また、コロナワクチンで1000人以上の方が亡くなっていることご存知ないですか。(厚生労働省が認定している)</u> <u>その上での、新型インフルエンザ対策行動計画なんでしょうか。まずは、新型コロナ対策の見直しが先なのでないでしょうか。</u>	素案どおり	本計画は、これまでの感染症対応における知見や経験を踏まえ、今後の感染症危機に備えるための基本的な対応方針を定めるものです。 先の新型コロナウイルス感染症対応については、様々な課題や影響があったことを踏まえ、市民生活等への影響にも配慮しつつ、将来の感染症危機に備えた対策を行う事が重要であると考えています。
9	全体	<u>この対策の大前提として、多摩市自身が南多摩を含む周辺保健所の感染症情報について、確かなファクトデータを着実に取得することが重要です。また、新型コロナワクチンのように治験情報が十分でない段階の事柄については、上位行政からの情報をそのまま鵜呑みにしたり、噂や推測に基づいて判断したりすることのないよう、得られたデータを誇張せず、ありのまま市民に伝えていただきたいと考えています。</u> 私はデータ分析の専門家として、国が提供するNESIDデータを基に、兵庫県や京都市などの感染症情報の可視化・分析に取り組んできました。 こうした<u>ファクトデータに基づく分析を、判断材料の一つとしていただきたい。</u>	素案どおり	本計画においては、感染症対策を適切に実施するため、国や東京都、保健所等から提供される各種データを基に、状況を把握し、科学的知見に基づいた対応を行うこととしており、噂や推測に基づいて判断を行うものではありません。 今後も、科学的知見等を踏まえ、正確かつ分かりやすい情報提供に努めてまいります。

10	全体	新型コロナウイルス感染症を機に導入された「新しい生活様式」については、その効果だけでなく、リスクやデメリットについても十分に検証される必要があると考えます。特に子どもたちにおいては、身体的・精神的発達への影響が懸念されており、不登校や心身の不調の増加など、看過できない状況が生じています。これらを踏まえ、本市における感染症対策について、学校・保育・教育現場を中心に検証を行い、今後の感染症対策のあり方について見直しと再検討を行うことを求めます。	素案どおり	新型コロナウイルス感染症への対応に伴う取組については、子どもも含めた社会全体への影響にも配慮することが重要であると認識しています。 本計画においても、偏見・差別や不当な扱いが生じることのないよう留意しつつ、科学的知見に基づいた正確な情報提供・共有を行い、市民が適切に判断し行動できることが必要不可欠であることを基本的な考え方とした内容としています。 市としても、感染症対策の実施に当たっては、個人の意思や多様な考え方に配慮しつつ、感染拡大防止と社会機能の維持との両立を図りながら対応することが重要であると考えています。
11	全体	基本的に新型インフルエンザへの対策は個人の選択の自由があるはずです。 感染対策の名の下に個人の自由が奪われることは直接的でも間接的でもあってはならない事だと考えます。 <u>あくまで任意であることの周知を徹底することを計画に組み込むよう要望します。</u>	素案どおり	感染症対策の実施に当たっては、個人の意思や多様な考え方に配慮することが重要であると考えており、本計画においても、偏見・差別や不当な扱いが生じないよう留意しつつ、科学的知見に基づいた正確な情報提供・共有を行い、市民が適切に判断し行動できるようにすることとしています。